大阪・高宮（たかみや）遺跡

1　所在地　大阪府寝屋川市大字高宮
2　調査期間　一九八三年（昭58）一一月～一九八四年（昭59）三月
3　発掘機関　寝屋川市教育委員会
4　調査担当者　塩山則之
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　旧石器時代～室町時代
7　遺跡及び曲物出土遺構の概要

高宮遺跡は、生駒山系の西側斜面から派生する洪積層の寝屋川市東部丘陵の南端、海抜二八m前後の北東から南西へゆるやかに傾斜した丘陵地形に位置している。この丘陵上には、白鳳時代創建の国指定史跡高宮廃寺跡が所在している。

（大阪東北部）

高宮遺跡は、一九八〇年から四次にわたって調査が進められてきている。その結果、旧石器時代から室町時代までの遺物、遺構を検

出した。特に一辺約一mの柱穴をもつ掘立柱建物群と竪穴式住居群とは、長い柵列によって区画された古墳時代末期から飛鳥・白鳳時代の集落であることが判明し、この地に居住した氏族によって隣接する高宮廃寺が創建されたことが推察されている。

本遺跡は、寺院造営に直接かかわった古代氏族の居住地と氏寺造営地の関連を示すものとして重視されている。

今回の調査（第五次）は、海抜一二m前後の丘陵南面端部付近で実施したものである。この調査区では、掘立柱建物跡、井戸、土壙、溝、柵列を検出し、その他ピットの数は数百に及んでいる。

掘立柱建物跡は、その時期が丘陵頂部に形成された柵列で囲まれた巨大な柱穴をもつ掘立柱建物群と同時期と推察され、飛鳥・白鳳時代における集落の広がりを示すものである。この集落は、今回出土した多数の遺物から、奈良時代末期あるいは平安時代初頭まで存続形成されていたことが判明した。このことは、高宮廃寺が廃絶した時期とも一致しており、古代氏族とその氏寺経営を考える上においての今後の検討課題となるであろう。

次にこの地に集落が形成されるのは、平安時代末期であり、その時期の遺構として、土壙、溝、井戸、ピット群があげられ、墨書銘のある曲物が出土した遺構は、そのうちの木枠の施設をもつ井戸である。

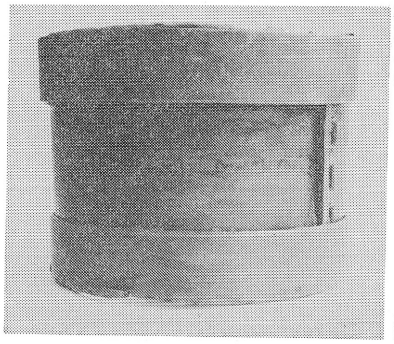
曲物の出土した井戸は、上端で長径二・七m、短径二・二mの変形の楕円形で、深さ三・一m、底面は一辺約九〇cmの正方形を呈している。井戸の内部には、底に長さ八五cm、幅三四cm、厚さ三cmの横板を二段組み合せた井筒を据え、その上に巨木を「コ」字形に刳り抜き二枚組み合せた井筒を据えている。刳り抜き井筒の枠材の残存計測数値は、長辺九五cm、短辺三〇cm、高さ一七〇cm、厚さ上部で一cm、底部で五cmを測る。曲物は、下の二段に重ねて横板を組み合せた井筒の上段部から出土している。この曲物に接して、底部に省略ぎみの螺旋状の暗文を施し断面三角形の高台を付した瓦器椀底部が出土している。その他、井戸の掘形の内外から瓦器椀、瓦器皿、土師皿が多数出土しており、枠内外の遺物の時期差はほとんどない。

8　墨書の釈文・内容

(1)　「保延六年□月十一日侍近桶也」

保延六年（一一四〇）の年号を記した墨書銘は、曲物側板中央部に施されている。

曲物は、直径一六cm、高さ一四cm、厚さ〇・三cmを測り、板材を薄板状に削り両端を合せて円筒状にし、合せ目の側板の重複する部分を桜皮で緊着し、さらに側板外



061

側の口縁部と底部に幅四cm、厚さ〇・三cmの箍をそれぞれはめ込んでいる。側板内面には、縦方向と斜方向にカキ目をつけている。底板は、直径一五・四cm、厚さ〇・七cmの円板状で、曲物の下端内側にはめ込んだのち、五箇所で木釘留めしている。

9 関係文献

寝屋川市教育委員会『高宮廃寺　発掘調査概要報告Ⅰ』（一九八〇年）
同『高宮廃寺　発掘調査概要報告Ⅱ』（一九八一年）
同『高宮廃寺　発掘調査概要報告Ⅲ』（一九八二年）
同『高宮廃寺　発掘調査概要報告Ⅳ』（一九八三年）
同『高宮廃寺　発掘調査概要報告Ⅴ』（一九八四年）
同『寝屋川市の文化財』第Ⅱ集（一九八〇年）
同『寝屋川市文化財図録Ⅰ』（一九八四年）

（塩山則之）